



あま かわ べ
天の川辺

双葉中学校通信

No.4(2024.7.17 発行)

〔文責:澤田隆文〕

教育目標 心を磨き、体技を磨き、夢・志をもって挑戦し続ける自分をめざそう
～努力を積み重ねる誠実さと情熱、しなやかな心で、可能性は無限大～

目指す生徒像 自分の将来に夢を抱き、自分の力を社会に生かそうとする志をもった双中生

双葉中学校ホームページ
はこちらから



「心のしなやかさ」は、自分の「弱さ」を認めることから



「心が折れそうになった。」という言葉が最近よく見かけるようになりました。「心が折れる」とは、目標を達成しようとする意欲を失ってしまったり、志半ばであきらめてしまったりする状態を意味します。

私たちの「心」は、前向きな言動を支えている大切な働きをしていますから、その心が折れて支えがなくなると、前向きな気持ちを維持できなくなってしまうのです。ですから、誰もが「折れない心のしなやかさ」をもっていたいと願うのではないのでしょうか。

しかし、自分がどの程度の「しなやかな心をもっているのか」は自分自身でもわからないものです。そのため、友だちに嫌なことを言われたり勉強がうまく進まなかったりするときなど、あなたが困難にであったとき、折れそうになる自分の心に気づくことがあるかもしれません。

困難なことであっても折れない心とは・・・ぜひイメージしてみてください。

それは、逆風を受け流すやわらかい樹木の枝のようなものかもしれません。

「心のしなやかさ」をもつには、まずは自分自身の弱い部分、苦手な部分を認めることが大切だと言われています。人には誰にでも、「できないこと」や「苦手とすること」があるものです。勉強が苦手、運動が苦手、人付き合いが苦手な人もいます。同じ勉強でも、例えば、国語は楽しいけれど、数学は苦手という人もいます。



このような苦手なことだけをとらえて「自分はダメだ」と考えてはいけません。無理に「変えなければ!」とがんばりすぎることはないのです。弱さや苦手なことがある自分自身を「それもまた自分なんだ。」と考えるようにしてみましょう。

「弱いな」と感じられる部分を「自分らしさ」として認めるところから始めてみてください。そして、「自分の弱さ」、「苦手なもの」に向き合い、昨日よりもでき

るようにチャレンジしてみる努力を大切にしていきましょう。

いよいよ夏休みです。夏休みは、ふだん経験できないことにチャレンジできる貴重な時間です。3年生の皆さんにとっては、進路の実現に向けて実力を伸ばし、課題を克服できる機会です。一日一日を計画的に過ごしてほしいと思います。1、2年生の皆さんにとっては、自分自身を甘やかさず、家庭学習や部活動、地域での活動を通して自分を鍛えてほしいと思います。

保護者、ご家族、地域の皆様には、夏休み期間中、家庭や地域に帰る子どもたちを温かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

夏休み中のタブレットパソコンの持ち帰りと活用について

夏季休業中、学習用タブレットパソコンを持ち帰っていただき、生活の記録や課題への取組に活用していただきます。

夏季休業中の活用の方法および課題の内容等については、学級活動で指導しておりますので、自宅において有効活用できるよう、お子様に端末の丁寧かつ適切な扱い方についてお声がけいただきますようよろしくお願いいたします。

タブレット端末の活用によって、考えたり表現したりしやすくなるだけでなく、例えば、漢字を書くことを苦手とする理由で作文を書くことが嫌いだった生徒が、端末を使うことで文章をどんどん書けるようになることも少なくありません。また、タブレット端末であれば書き直す作業も簡単なため、失敗を恐れずに表現できるという点もメリットだといえます。

また、ドリルパークなどの教材を使って、自分の学力に合わせて、自分のペースで学習を進められるメリットもあります。



夏の科学創作部展

夏季休業中の7月31日(水)から8月28日(水)まで、近江学びあいステーションラウンジにて「夏の科学創作展」を開催します。

科学創作部の生徒が創作した地域の写生画や課題作品等を展示します。昨年度も多くの応援の声をいただきました。ぜひこの機会に、ご家族、地域の皆様にもご覧いただき、生徒のがんばりを励ましていただきますようお願いいたします。



先人の探究の歴史を学ぶ～1年ふるさと学習

6月20日(木)に、1年生ふるさと学習を行いました。岩脇では、まちづくり委員会の藤本さんから岩脇の歴史や機関車塚について教えていただきました。また、多和田では、樋口さん、粕渕さん、原田さんからオオムラサキの保全活動や養蚕産業について教えていただきました。

訪れた真綿工場では、蚕(カイコ)の繭から糸を紡いだり綿にする作業を体験させていただきました。蚕と人との関係は古く、蚕の力を借りた絹糸生産は約4000年前に中国で始まりました。絹糸はタンパク質でできていて、蚕がタンパク質を作るしくみを利用してワクチン生産など医療分野に応用されています。先人が探究した歴史が、現代科学に受け継がれているのです。



宇賀野福祉会から花の苗をいただきました

宇賀野福祉会で種から育てられたマリーゴールドの花の苗を400ポット寄贈していただきました。本校の生徒会の代表が福祉会の堤さん、北村さんから受け取り、「ありがとうございます。大切に育てていきます。」と挨拶をしてくれました。

「今年は雨が少なく、水やりがたいへんだった。」とおっしゃっていた堤さん、北村さんをはじめ福祉会の皆さんに感謝しながら、大切に育てていきたいです。



2年生職場体験学習

働くことの意義や働く人の工夫を地域で学ぶ

2年生では、今月1日(月)から5日間、職場体験学習に参加しました。市内を中心に27事業所のご協力により、有意義な体験をする中で、「働くことの意義ややりがい」、「家族への感謝の気持ち」など、さまざまなことを学ぶことができました。

ご多用の中、ご協力いただいた事業所の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。また、保護者の皆様には、お弁当の準備等でお世話になりました。ご協力ありがとうございました。

